“JIT”を旗印に環境改善活動

津守秀成*
服部　彰**
武田安史*

Environmental Improvement Activity with the Slogan of “JIT”

Hideshige Tsumori, Akira Hattori, Yasushi Takeda

要　旨

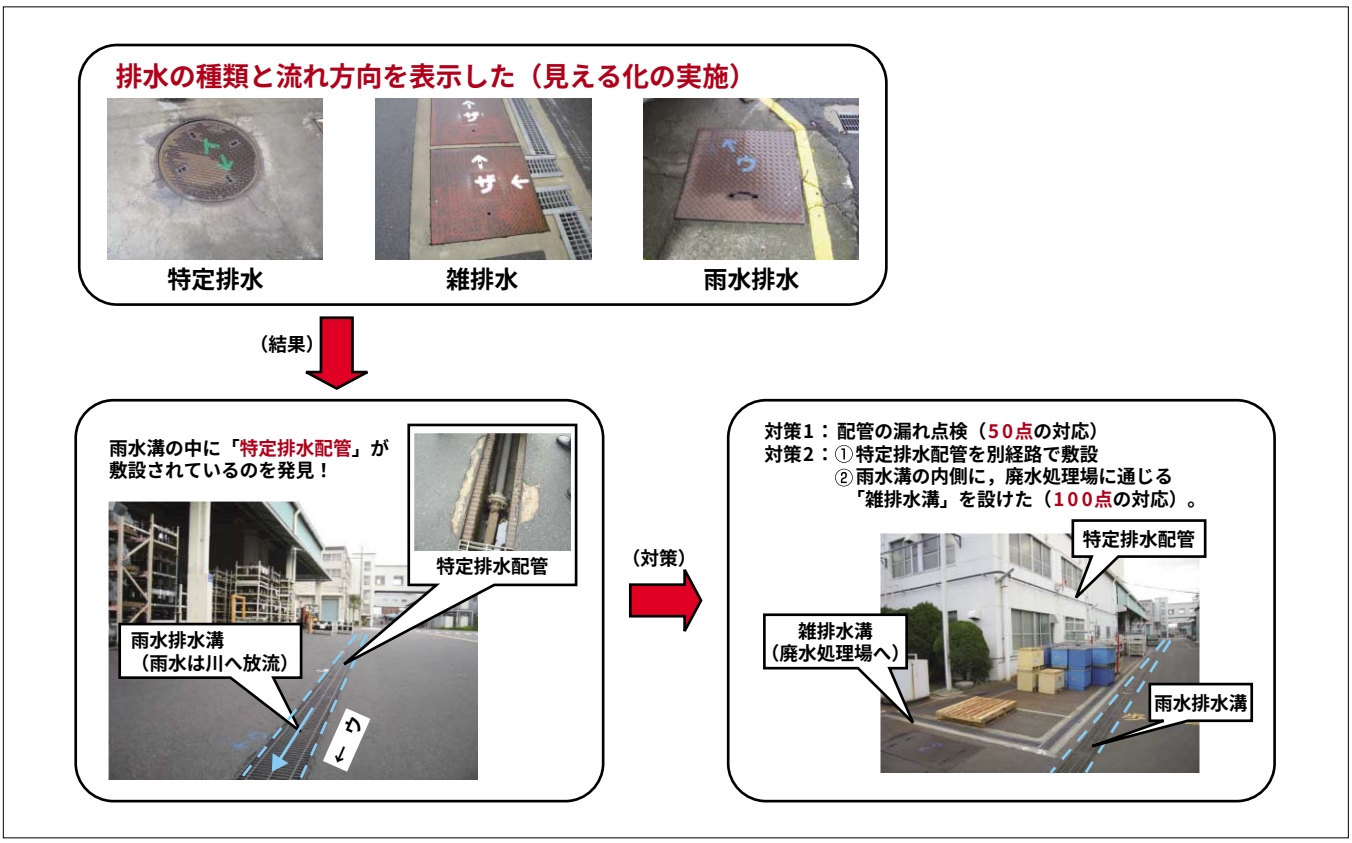
三菱電機㈱冷熱システム製作所(以下“冷電”という。)が取り組んできた“JIT(Just In Time)生産革新活動”の手法を環境保全部門でも“全所をあげてのJIT活動”の一環として取り入れ，JITの精神である“必要なものを，必要な時に，必要な量だけ”の考え方で取り組んできた活動が“環境JIT”である。

2003年10月にキックオフした“冷電JIT生産革新活動”に遅れること１年，2004年10月から“排水経路の見える化，不適箇所の即改善”を“環境JIT”の最初のテーマとして活動を開始した。“環境JIT”は，排水改善，廃棄物削減，省エネルギー推進を“環境保全の３つの柱”に位置付け，活動している。

“排水経路の見える化，不適箇所の即改善”では工場内にある排水溝，マンホール，会所に“どんな水がどの方向に流れているか”を調査して路面に書いたところ，雨水溝の中に“特定排水配管”があったり，油倉庫のすぐ横に雨水ピットがあったりと，“現状が見えると問題点がわかる”ことを体験した。

省エネルギー活動では，JITの基本概念である“必要なところで，必要な時に，必要な量だけを使う”という発想のもとに，“６つの視点”という省エネルギーツールを使って，エネルギー使用状況を検証，具体的改善活動への展開に成功した。

ここでは，行動指針にある“最初から100点をねらうのではなく，50点でも良いからすぐにやる。”という精神で活動してきた内容について事例を交えながら述べる。



排水経路の見える化，不適箇所の即改善

工場内の排水溝，マンホール，会所に“流れる水の種類”“流れる方向”を路面に書いた結果，雨水溝の中に“特定排水配管”が設置されているのを発見した。この“特定排水配管”が地震などで破損すると，雨水溝に“特定排水”が漏洩（ろうえい），雨水溝を経由して河川へ流れ出てしまうおそれがあるため，“特定排水配管”を別経路で敷設するとともに雨水溝の内側に“雑排水溝”を設置した事例である。

*三菱電機㈱ 冷熱システム製作所　**和菱テクニカ㈱